



SEA・CIRが大活躍中！活用事例と研修について

(一財)自治体国際化協会 JET プログラム事業部

はじめに～SEA・CIRの現状

皆さんは、JETプログラムといえばALT（外国語指導助手）だと思いませんか？実は、JETプログラムにはALTのほかにもSEAとCIRという2つの職種があります。

SEAはスポーツ国際交流員のことです。現在は全国に7名のSEAがおり、学校の部活動やスポーツ少年団での指導などを通じて国際交流に取り組んでいます。現在の任用数は少ないですが、2019年のラグビーワールドカップや、2020年の東京オリンピック・パラリンピック時のホストタウンに向けて注目が高まっており、来年度には大幅に増加する見込みです。

一方、CIRは国際交流員のことです。SEAよりは広く認知・ご活用いただいております。現在410名が212自治体に任用されています。CIRは日本語が堪能で、翻訳・通訳やイベント企画、文化紹介などに従事しています。

SEAの魅力と活用
～元プロ選手がやってくる！

SEAは母国でプロ選手などとして活躍した人材で、母国のオリンピック委員会や政府機関などに十分な指導力があると認められた人が選考されます。住民にとっては、世界基準の指導を直接受けられる、大変貴重な機会になります。

現在任用されている7名の競技種目は、クロスカン トリースキー、サッカー、ボート、バスケットボール、バドミントン、陸上です。国籍は韓国、フィンランド、ケニアなどさまざまで、その競技種目の強豪国から招致されており、いずれも、自治体からの国籍・競技の要望に応じて配置しています。勤務先は役場や学校など自治体によって異なります。

SEAは、放課後の部活動を指導することも多いため、本人との話し合いにより勤務時間も柔軟に定めている場合が多くあります。勤務を午後から夜までとしている事例や、平日を休日とし、土日に子供たちの指導を行って

いる事例もあります。

SEA任用団体では、スポーツ強豪校の更なる強化や、スポーツ少年団の立ち上げや普及などに活用していただいています。ある自治体では、SEA任用開始から2年程度で全く競技人口がいなかったスポーツを、全国大会で入賞者が出るほどまで普及・強化した事例があります。

SEA 中間研修
～情報交換とレベルアップの場を提供

SEAは全国に7名しかおらず、SEA同士、SEA任用団体同士での情報交換は難しい状況です。そのため、毎年11月ごろに開催しているSEA中間研修は、SEAおよび日本人担当者を対象に、スポーツに関する知識の提供だけでなく、参加者・担当者同士の情報交換の場を設けることも目的の一つとしています。

平成28年度のSEA中間研修は、11月21日と22日の2日間、国立スポーツ科学センターで実施し、全てのSEAと多くの担当者が参加しました。内容としては、スポーツ心理学などについての講演、各参加者の活動内容の発表および意見交換、トレーニング実技講習、施設設備の見学および担当者の意見交換を行いました。参加者は、積極的に質問や意見を出し合いながら、熱心に受講していました。特に、国立スポーツ科学センターは、日本のトップアスリートが合宿などを行っている施設であ



H28年度 SEA 中間研修の様子

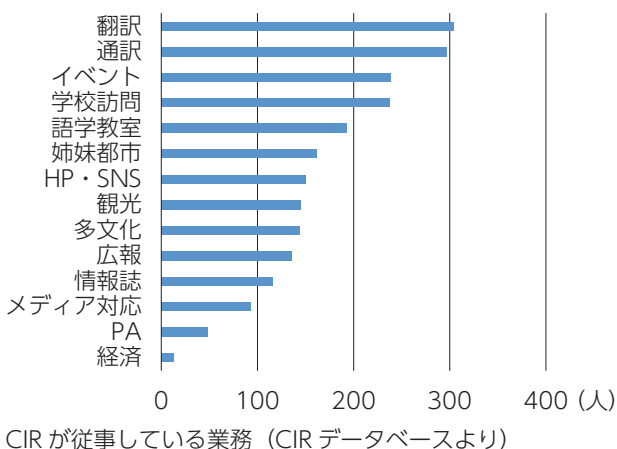
り、その施設を見学することや、そこで実技講習を受けることはSEAにとって貴重な体験となったようです。

CIRの魅力と活用 ～幅広い国際交流活動で活躍！

CIRは日本語能力試験N2レベル以上であると認められた人材です。現在は31か国からの参加者が活躍しており、言語別の内訳では、英語圏が210名、中国語が63名、韓国語が53名、そのほかの言語圏が84名となっています。

317人のCIRに情報提供していただき、公表しているCIRデータベース（平成28年11月版）によると、翻訳に従事しているCIRは95%に上る304人で、通訳についても297人のCIRが従事しています。そのほか、イベント企画・実施や学校訪問などに半数以上のCIRが従事していますが、特筆すべき事項として、ホームページやSNSでの情報発信、観光関連業務に関わっているCIRも150人ほどいます。

具体的な業務事例を挙げてもらったところ、観光用のパンフレットやキャッチコピーの作成、ラジオのパーソナリティ、絵本の読み聞かせ、動画の撮影、VIP対応、在住外国人支援など、さまざまな業務が挙げられました。自治体の国際化が叫ばれる中、CIRの重要性は増しており、業務も多様化していることがうかがえました。



CIR中間研修 ～ニーズに合った知識の提供

平成28年度CIR中間研修は、11月28日から30日までの3日間で行われ、369名のCIRと26名の担当者の



H28年度CIR中間研修 CIRによるパネルディスカッション

合計395名が参加しました。研修会は基本的に、同時時間帯に6種類の分科会を用意し、必要な分科会を選んでもらう方式で行っています。分科会の内容は、前年度の中間研修におけるアンケート結果やCIRデータベースの調査結果をもとに、ニーズに合ったものを提供しています。

今回は、増加する観光・広報関連業務を念頭に、「効果的な広報戦略」や「SNSで注目される写真の撮り方」のほか、さまざまな事業で活用できる、「思わず手に取るチラシの作り方」や「効果的なプレゼンテーション」の分科会を実施しました。そのほか、多文化共生や外国人の法律問題についての分科会、また、自己啓発や業務改善につながるよう、ストレス管理や苦手な人とのつきあい方、日本の地方自治体の現状と課題についての分科会も開催しました。参加者からは、概ね満足したという評価を得られており、「とても参考になった」、「専門家の話が聞けて良かった」、「すぐに使える知識を得られた」「日本人担当者としてもとても参考になった」などの感想をいただきました。

終わりに

SEAおよびCIRは、任用していただいている団体ではさまざまな事業に活用されているものの、認知度はまだ低い状況です。2020年の東京オリンピック・パラリンピックや、訪日観光客の増加も踏まえ、当協会では、認知度を上げるとともに、より多くの自治体で効果的に活用していただくための取り組みを行ってまいります。

SEAおよびCIRの活用事例について、より詳しく知りたい場合は、下記までお問い合わせください。

【連絡先】

(一財)自治体国際化協会 JETプログラム事業部
03-5213-1733